

## 2012MHC 登山講習 「花の奥上高地」 報告書

5月26日 AM8:00、松本市安曇支所に参加者9名が集合、市専用バスに乗り込み出発する。天候は晴。新緑萌える梓川沿いに走り、新釜トンネルを抜けると、展望が開け、左に残雪の焼岳、そして道を大きく右に曲がると、流れる雲間から空高く、残雪の穂高岳連峰が望まれる。大正池畔で下車し、大自然の空気を味わう。風も無く、池面に鏡のように穂高岳が映し出されている。



大正池面に映る残雪の穂高岳



池畔の木道を行く



田代湿原で一休み

AM9:00 準備を整え、リュックを背負い、大正池畔を出発する。木道を歩き、若葉萌える林の中を歩く。霞沢岳を仰ぐ田代湿原を巡り、田代橋から梓川右岸に行く。1時間30分ほどで河童橋に到着。雪解け水を集めて流れる梓川畔から見上げる空に、残雪頂く穂高岳が聳え立つ。ここから右岸沿いの林の中に行く。湿地帯に架けられた木道を歩き、鳥がさえずる小道を進む。



河童橋袂から望む奥穂高岳 3190m



梓川右岸の木道を明神へ向う



オオカメノキ



ミヤマキケマン

途中、梓川支流に泳ぐ岩魚を見つけ歓声をあげる。一汗かいて、AM12:00 嘉門次小屋に到着。奥の囲炉裏部屋に陣取り、岩魚の塩焼きを賞味し、持参した昼食を摂る。30分程の休憩の後、つり橋を渡り、梓川左岸を明神から徳沢に向うこととする。この付近からは、ニリンソウ、シロバナエンレイソウが一面に咲き、道端にはサンカヨウ、ツバメオモトなど白い花々が咲く。川辺の近く、コバルト色のエゾムラサキ、薄紅色のベニバナイチヤクソウが姿を現すと、PM3:00 今日の宿、徳沢ロッジに到着する。



林道端に群落するニリンソウ



ニリンソウ



フッキソウ



サンカヨウ



ツバメオモト



シロバナエンレイソウ



エゾムラサキ

皆、残雪の峰々と新緑のみずみずしさ、そして咲き競う花々に、心洗われる気持ちとなる。夜、静かなロッジ内では、ホルンが奏でられ、奥深い低い音色に、心いやされ、酔いしれる。

27日、快晴の朝。東の空に朝陽が昇り、対岸にそそり立つ明神岳、前穂高岳の先鋒群が、徐々に紅色に輝いてくる。壮大にして、厳粛な山の朝の儀式に会う。朝食後、AM7:30、ロッジを軽荷で出発。鳥のさえずる林を抜け、新村橋の吊橋を渡り梓川左岸をしばらく登り、奥又白入り口へ向う。ここからは、小説「氷壁」の舞台となった前穂高東壁を仰ぐ。実際遭難した人も多く、敬虔な気持ちで合掌する。



徳沢から望む、朝陽を浴びて輝く、明神岳、前穂高岳の威容



徳沢に群落するニリンソウ

この後、AM10:00 徳沢に到着。花々の咲く往路を引き返し、明神、小梨平を経由して、PM12:15 バスターミナルに辿り着く。2Fの食堂で昼食を摂り、PM1:20 駐車場で待つ市バスに乗り、PM2:30、松本市安曇支所に到着、解散としました。「青い空と上高地の新緑と穂高岳の残雪、そして花々の多さを再認識した、全員大満足の山旅だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則